

1 学力向上推進計画

I 目標

幼児・児童・生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む
(幼・小・中)～「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業(保育)改善をめざして ～

II 基本方針

- 県学力向上推進プロジェクト「授業改善6つの方策」並びに本村「人づくりの島」プロジェクトを踏まえ、幼・小・中の各学年で身につけるべき「確かな学力」の向上を推進するため、本校の「授業改善ビジョン」を作成し、取り組みの重点を「授業改善」におく。
- 目標の具現化に向けて、学力向上マネジメントを機能させ、全校体制で取り組みを推進する。
- 学校・家庭・地域の役割を明確にし、連携・協力して「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「確かな学力の育成」など生きる力を育む日常的・継続的な取組を推進する。

III 推進の視点

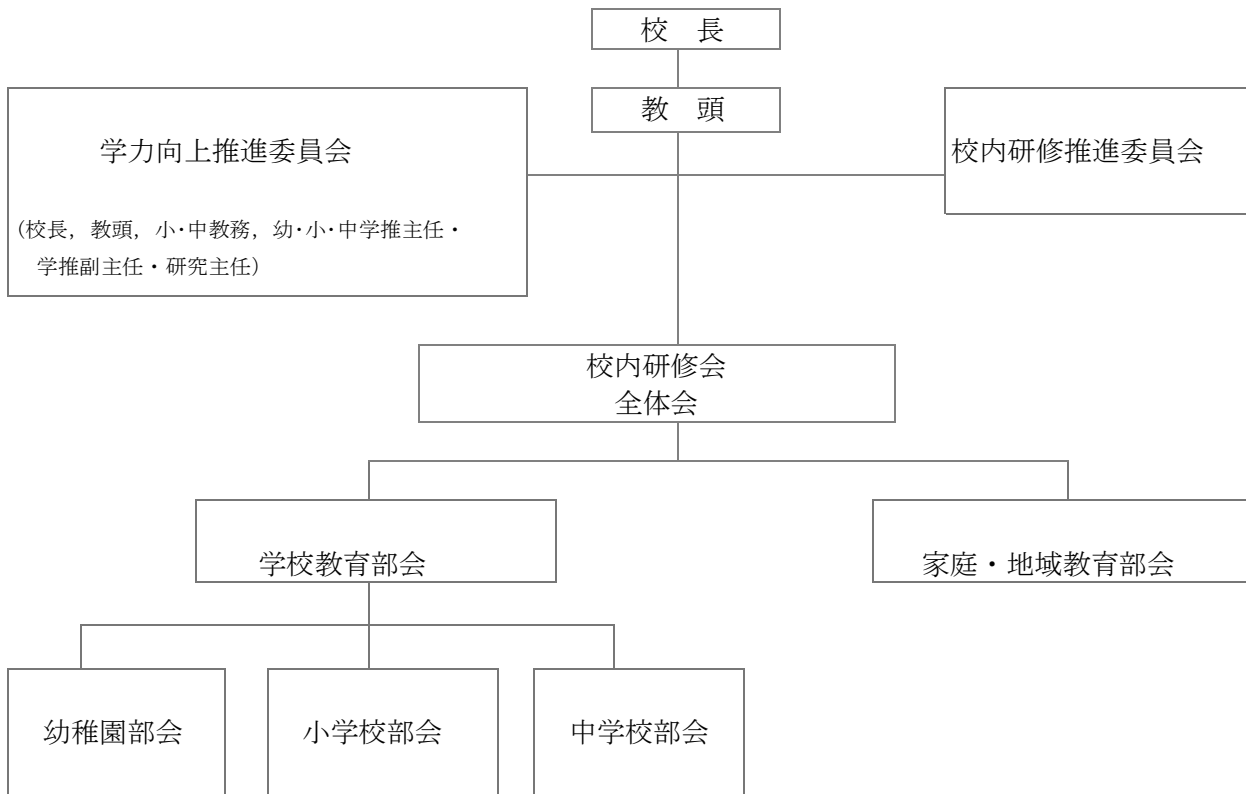
- 1 主体的な取組
幼児・児童・生徒の実態等を踏まえ、生きる力を育み、創意工夫のある教育課程の編成を行う。
- 2 課題に対応した取組
幼児・児童・生徒の実態を把握し、めざす幼児・児童・生徒の姿、めざす授業像を共有し、浸透させる。
- 3 具体的な取組
学力向上の具体的な到達目標を設定し、到達目標に向けた具体的な手立てや学力向上年間サイクルを作成し、学力向上に係わる取り組みを推進する。
- 4 日常的な取組
具体的な取組のそれぞれの趣旨を周知し授業改善を推進していく上で、継続して土台となる「学習を支える力」の育成に取り組む。
- 5 実効性のある取組
幼児・児童・生徒一人一人の到達目標の実現のため、「他者と関わりながら、課題の解決に向かい『問い』が生まれる授業」を意識して授業改善に取り組む。
- 6 連携した取組
幼・小・中併置校の良さを活かし系統的・継続な取り組みを行い、家庭・地域との連携による組織的な学力向上に係る取組を推進する。

IV 幼稚園、小学校、中学校における「校種間のたすき」をつなぐ取組

- 1 幼・小・中連携による共同研究（共通の研究主題）の推進を図る。
- 2 幼・小・中全体の校内研修会（研究授業・授業研究会）を実施する。
- 3 幼・小・中学校それぞれのめざす授業や子どもの姿を設定し、共有する。
- 4 幼・小・中学校共通の「学習を支える力の育成」に関する取組の確認と実践
- 5 PTA と連携した基本的生活習慣の形成

V 推進体制

1 組織及び組織図



2 各組織の役割と活動内容

各組織	役割	活動内容
学力向上推進委員会	○学力向上推進計画の作成立案	○企画委員と学推担当で校内学力向上推進委員会を構成し、前年度から引き継がれた児童生徒の実態等を踏まえ、「校内学力向上推進計画」を作成し、提案する。(「校種間のたすき」をつなげる)
校内研修会 (全体会)	○幼・小・中学校全体の方針, 共通実践項目の確認と改善	○定例の校内研修において, 学力向上推進の具体的な実践を推進させる。 ア 主事招聘による研究授業・授業研修会の実施 (幼稚園, 小学校, 中学校それぞれ実施) イ 学力向上推進計画をふまえた各主任による校務分掌に係る研修の実施 ウ 村学力向上推進実践発表のまとめ (令和3年1月 下旬)
幼・小・中学校部会 校内研修 (幼・小・中学校研究)	○各学校における課題に応じた対策の実践と取組に対する評価・分析	○定例の、幼・小・中学校研究部会において, 学力向上推進の具体的な実践を推進させる。 ア 児童生徒の学習状況を把握し, 教師一人一人がカリキュラムマネジメントを意識した授業を実践する。 イ 研究主題に即した研究授業の指導案作成と内容検討, 授業研究会を行う。(1人1研究授業) ウ 学力向上推進計画の取組の結果を分析・考察し, 成果と課題をまとめる。

3 各種主任の役割と活動内容

各種主任名	役割	活動内容
学力向上推進主任	○学力向上の推進 ・基礎・基本の定着 ・読書の習慣化 ・学習規律の徹底 ・家庭学習の習慣化 ・基本的な生活習慣の形成	ア 学力向上推進計画の立案 ・各取組に対する役割分担 ・報告書の作成, 報告会での発表 イ 年間の学習計画立案 ・学力向上強化(旬間) 月間に実施 ウ 読書の奨励 エ 各校種共通の学習を支える力の設定立案 ・各学期当初に, 共通指導項目を設定 オ 家庭学習の取組への計画立案 ・家庭学習の進め方の計画立案 (内容の点検) ・家庭への協力体制づくり カ 生活リズムの確立に係る計画立案 ・生活リズム点検表の実施
教務主任	○各学校全体における学力向上推進計画の調整と運営	ア 職員間共通理解の場の設定 ・幼・小・中学校職員会議, 校内研修会の日程調整 イ 学力向上推進担当や研究主任との連携 ・実施方法や期間の事前の打ち合わせ ・各教科の学習方法, 内容の点検と指導
研究主任	○校内研修計画の推進 ・校内研修会の実施 ・主事招聘研究授業 授業研究会の運営 ・研究紀要作成	ア 校内研修の全体計画の立案 ・毎月1回の校内研修会の運営 ・夏休みの校内研修会の全体計画の立案 イ 幼・小・中学校研究部会の全体計画の立案 ・毎月1回の学校研究会の運営 ウ 研究授業・授業研究会の全体計画の立案 ・主事招聘の研究授業, 授業研究会の運営 エ 1人1研究授業の調整, 授業研究会の運営
各主任	○学力向上推進計画をふまえた校務遂行と校内研修の実施	ア 学力向上推進計画に基づいた活動計画の作成・運営 イ 校務分掌に係る校内研修の実施
各教科担当	○「他者と関わりながら, 課題の解決に向かい『問い』が生まれる授業」の実践	ア 学習指導方法の改善 ・自分で課題に向き合い考える時間の設定 ・他者との交流を通して深い学びにつなげる場面の設定 ・学びの過程を振り返り, 新たな「問い」を持たせる工夫 イ 教科間, 幼小中間の連携 ウ 家庭学習との関連 エ 各種検定試験の推進
各学級担任	○学習を支える力の育成 ・生活リズムの確立 ・家庭学習の充実 ・読書活動の充実	ア 生活リズム点検の実施 【生徒指導】 イ 読書推進活動指導 【読書教育】 ウ 家庭学習ノートの指導 【学推】 エ 各教科との連携

4 年間計画

月	学力向上推進計画	備 考	具体的取り組み
4月	本年度の学力向上推進の確認 ◎学力向上推進強化月間(学習規律強化月間) ・共通した授業スタイルの確認 (教室環境整備、学習規律等) ・家庭学習の共通理解と実践 ○全国学力状況調査に向けた取り組み ・小6、中3は重点指導 ◎全国学力学習状況調査 (小6：国・算) 中3：国・数・理)		○職員会議、部会で共通確認 ○座間味スタンダードの確認 (校内研担当と調整) 授業スタイルの確認
5月	○全国標準学力調査に向けた取り組み ◎全国標準学力検査 (小学校：2教科 中学校：5教科) ○知能検査(小3, 5) QU(小2以上)i-check (中学生)実施		
6月	○学力向上推進計画の確認 ○全国学力調査の結果の活用 ○学びのたしかめ ○学校・児童生徒質問紙	村教育委員会提出 (全職員で確認)	○成果課題の把握 ○課題解決に向けた取り組み
7月	○知能検査、ハイパーQU、i-check テストの報告 ○全国標準学力調査の結果報告 ○全国学力調査の結果の分析と対応策		○児童生徒の実態の共通確認・対応確認 ○成果と課題の把握 ○課題解決に向けた取り組み
8月	○夏休みの課題実施 ○夏休みの課題点検		○苦手分野の課題を出し、既習事項の徹底指導と定着を図る
9月	◎学力向上推進強化月間("やる気"アップ月間) ・家庭学習の共通理解と実践 ・生活リズムを整える ・授業スタイルの再確認		○生活リズムチェック ○ポスター掲示 ○教師による声掛け強化 ○既習事項の徹底指導と定着
10月	○読書奨励月間(放送読書)		
11月	○学校・児童生徒質問紙		○既習事項の定着を図る ○読書奨励時間を活用し、読書に取り組みさせる。
12月	○学力向上推進実践報告書作成の取り組み ○冬休みの課題実施(まとめ学習) ○冬休みの補習指導		○村学推実践報告書作成に向けての確認 ○これまでの既習事項の徹底
1月	○冬休みの課題点検 ◎学力向上推進強化月間(学習ステップアップ月間) ・到達度調査に向けての取り組み ○座間味村学力向上推進発表会		○まとめ学習で既習の定着を図る ○報告書の提出
2月	○到達度調査に向けた取り組み ・小3～6 中 重点指導 ・県学力到達度調査(小3～6・中) ・島尻地区学力向上推進発表会 ・次年度計画作成・提案(小中別で検討)		○落ち込み単元を徹底指導 ○(中)各教科担当による補習指導
3月	○当該学年の総復習 ・令和4年度学力向上推進計画の提案		○落ち込み単元を徹底指導

5. 家庭学習共通実践

(1) ねらい

- ①学習習慣の確立を図る
- ②日々の学習を通して、基礎基本の定着を図る
- ③日々の学習を通して、自律的な学習者（自己調整能力）の育成を図る。

(2) 取組内容

- ①めあての記入
 - ・目的を持って学習する。なんのために学習するのかを明確化する
- ②学習時間の記入
 - ・学習習慣の確立（できるだけ、決まった時間にできる方が望ましい）
- ③学習
 - ・各自立てためあてに沿って、学習を工夫する
- ④振り返りの記入
 - ・自己を振り返る
 - ・できるようになったこと・苦手なことを明確にする
- ⑤児童・生徒の家庭学習を通して、適宜コメントや声かけをする。
 - ・学習意欲の向上

ノートの書き方

①めあて：	②学習時間
③学習	
④ふりかえり：	
⑤教師からのコメント（適宜コメントを記入または、声掛けによる激励） コメント欄は設けない。	

(3) 9年間の学びを支える家庭学習と位置づける

- ・基礎期・・・小1～小3 家庭学習の習慣を身につける
(低学年においては、課題を指定しめあてを意識させる)
- ・充実期・・・小4～小6 めあて・振り返りを通して、自己を見つめながら学習する
(計画的に学習する力を育成する)
- ・発展期・・・中1～中3 自分なりの学び方を確立する
(自分の学び方を見つける)